

## 7 災害防ぎよ

### 7 - 1 消防機関の災害態様別防ぎよ内容

#### 1. 危険物火災

- (1) プラント火災  
プラント装置地区における火災は引火、燃焼拡大が急激であり、隣接施設、タンク等への延焼拡大の危険が極めて高いので災害の実態を早期に掌握し、次の点に留意しながら防ぎよ活動にあたる。
  - ア プラント地区は種類の装置が多く、放水は勿論、みだりに冷却放水、泡放射等を行うことは、危険が伴うこともあるので、指揮本部（指揮者）の指示を受けた後、消火活動を行うこと。
  - イ 状況に応じプラント運転員による装置の緊急運転停止、弁閉止、又は送油中止、あるいは油の抜き取り、移送等の諸操作を早急に実施させること。
  - ウ 防ぎよにあたっては、配置資機材及び耐熱服等を有効に活用、あるいは遮へい物等を利用して、耐熱及び輻射熱遮へい措置をとりながら防ぎよにあたるものとする。
  - エ プラント地区火災時には、可燃性ガスの漏洩による滞留危険が伴うのでガス検知器を活用し、危険度を測定し滞留地域には、消防車等の進入はさせないこと。
  - オ 車輦、機械等、発熱、電気スパークを発生するもの使用に際しては、風向、停車位置に注意し、二次災害の防止に留意すること。
  - カ プラント直近に貯蔵タンクがある場合は、直ちに効果的な冷却注水を実施する。
  - キ 可燃性ガス滞留に伴う二次的な引火、爆発事故防止に留意すること。
  - ク 排水口は石油類及び生ガス等が流（噴）出した場合、火災拡大の要因となることから特に留意し、必要に応じエアーフォームによりシールする等の措置を講ずること。
  - ケ 流出油（ガス）による地上火災発生時にはエアーフォーム、又はドライケミカル消火器により早期消火を図り全面火災防止に努める。
  - コ 泡放射、冷却放水に当たっては、各筒先相互に緊密な連けいを保ち効率的な放水（射）を心がけること。装置の冷却放水時には特に機器損傷を考慮し、噴霧放水を原則とする。
  - サ 企業が保有する消防用設備の活用と緊急措置による効果及び影響について常に配慮し、適切な判断のもとに活動すること。
  - シ 高温部の火災防ぎよについては直接注水の場合、急冷により機器に亀裂損傷を生じることがあるため、スチーム又はドライケミカルとの併用による消火をはかること。消火後なお漏洩部から可燃性ガスの流（噴）出している場合は水噴霧（直接機器への放水はさける）又は、スチームによりガスを希釈拡散し二次爆発の防止に努めること。
  - ス 低温部の火災防ぎよ要領については水噴霧、ドライケミカルとの併用により消火すること。
- (2) タンク火災  
タンク地域における火災は、通常それぞれ防油堤で区画されているため、プラント火災よりも延焼拡大が緩やかであるが、施設規模が大きき、貯蔵量も多いため、防ぎよ活動は困難で、活動が長時間にわたる場合が多い。防ぎよ活動の要領は次のとおりである。
  - ア 燃焼物質、タンク容量、内容物の現在量及び燃焼面積を把握するとともに隣接タンクへの危険判断を行う。
  - イ 発炎タンクの固定消火設備が損傷されていない場合は、固定消火設備を最大限活用する。
  - ウ 火災の状況によりタンクの内容物の移送を行う。
  - エ 消火に必要な泡水溶液は、油面 1㎡当り毎分 6.5ℓ を標準とし、燃焼面積から必要資機材を判断する。
  - オ 消火活動は風上から行うことを原則とし、やむを得ないときは横から行う。
  - カ 泡は一挙に大量に放射し、泡放射を中断することのないように注意する。
  - キ 泡放射は、油面を攪拌しないように行うこと。状況により対面の内壁を緩衝板として活用する。
  - ク 現場最高指揮者は、ボイルオーバー、スロップオーバーの発生に最大の注意を払う。
  - ケ 消火順序としては、地上火災を優先し、タンクの全面火災防止を図るため、隣接タンク

ク装置等への冷却放水を実施するとともに、タンク本体付属の散水設備を作動させて冷却措置を行う。

コ フローティングルーフトタンク火災で、シール部分のみの火災の場合は、火災部分に効率的に放射する。

サ 鎮火しても、再燃防止のためしばらく泡放射を続ける。

シ 発炎タンクの冷却は、液面付近のタンク側面に放水線を定めて集中的に行う。この場合、タンク内部へ直接放水しないよう注意する。

ス 発炎タンク周辺のタンクの冷却は、風下にあるタンクを優先し、ついでに横風のあたるとタンクの冷却を行う。

#### 2. 危険物の流出

流出油については、着火した場合大災害に進展する可能性が高いので、流出範囲の拡大防止と着火防止に最大の努力を傾注する。

(1) 屋外貯蔵タンク等の損傷により危険物が防油堤外に流出するおそれがあるときは、導油溝等を設けて安全な場所に導いて回収を図る。もしくは、隣接貯蔵タンク等に移送して回収を図る。

(2) 海上への流出油に対しては、オイルフェンスの展張により一次的な拡散を防止した後、

流出油の性状に応じた方法により回収又は処理する。

(3) 引火防止のためには、エアーフォームによる被覆を行う。

#### 3. 高圧ガス火災

一般的には、エチレン、プロピレン、ブタジエン、LPG 等の液化可燃性ガスの火災であるが、いずれも直接消火することは非常に困難なうえ拡散を助長させる危険が大であり、二次的爆燃を起こす危険があるため、直接消火よりも冷却等によって徐々に鎮圧する。

また、アンモニア、酸化エチレン等の液化毒性ガスの火災は、人体に影響を及ぼす毒性を有しているため、指揮者等は毒性についての正しい知識を熟知するものとする。

石油コンピナート等災害出場計画および泡薬液搬送計画

京浜臨海地区 第1出場

区分	直接消火隊	化学車隊	送液隊	消火隊			
				第1消火隊	第2消火隊	第3消火隊	第4消火隊
第1出場	第1消火隊 (水溶性液体用)						
	出場隊名	大黒町高所放水	小机	大黒町原液搬送 (未吉)	大黒町原液搬送 (未吉)	大黒町原液搬送 (未吉)	大黒町原液搬送 (未吉)
	泡薬液搬送量		1800	4000	3500		
	泡薬液	車載	大黒町タンク	車載	大黒町タンク		
	特命事項	簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	簡易水槽搬送	ピストン輸送		
	第2消火隊						
	出場隊名	本牧和田高所放水	本牧和田大型化学	時田	杉田原液搬送 (杉田)	杉田原液搬送 (杉田)	
	泡薬液搬送量		2000	1500	4000	3300	
	泡薬液	車載	車載	磯子タンク	車載	西タンク	
	特命事項	簡易水槽搬送	簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	簡易水槽搬送	ピストン輸送	

京浜臨海地区 第2出場

区分	直接消火隊	化学車隊	送液隊	消火隊			
				第3消火隊	第1消火隊	第2消火隊	第4消火隊
第2出場	第3消火隊						
	出場隊名	保土ヶ谷はしご	入船(特)	片倉	西原液搬送	西原液搬送	
	泡薬液搬送量		1200	1500	5000	3100	
	泡薬液	車載	車載	西タンク	車載	西タンク	
	特命事項	可搬砲搬送	簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	簡易水槽搬送	ピストン輸送	
	第4消火隊						
	出場隊名	鶴見はしご	鶴見第2(特)	雷岡	本陣	同左	同左
	泡薬液搬送量		1200	1500	1200	1200/1200	1200/900
	泡薬液	車載	車載	磯子タンク	入船タンク	入船タンク	入船タンク
	特命事項	可搬砲搬送	簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	ピストン輸送	
第5消火隊							
出場隊名	緑はしご	浦島(特)	上永谷	北山田	同左	同左	
泡薬液搬送量		1200	1500	1500	1500/1500	600	
泡薬液	車載	車載	磯子タンク	入船タンク	大黒町タンク	大黒町タンク	
特命事項	可搬砲搬送	簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	ピストン輸送		

注1:消火隊・はしご隊はそれぞれ単隊として出場すること。

注2:搬送資機材については、活動要領(第3章第5節1(4))搬送資機材等を参照し、各隊に必要な資機材等を搬送すること。

注3:泡薬液搬送量は、2時間の泡放射を継続させるため、各消火ラインごと合計10,800Lの泡薬液を搬送する。

注4:原液搬送隊は、定められた消火ラインの泡薬液の搬送が終了した場合は、他の消火ラインの泡薬液搬送を補うこととする。

各隊等による繰り上げ出場

第1出場及び第2出場において欠隊等による繰り上げ隊は、第3・第4出場の上位同一任務部隊が繰り上げ出場となる。

原液搬送隊のみ在江戸隊、鳥が丘隊の代わりとして元石川消防隊、中瀬谷消防隊を指定する。(繰り上げ順 鴨志田 長津田 元石川 中瀬谷)

第1出場	指揮本部運営(支援隊)	
	鶴見区	神奈川区
第1出場	鶴見指揮	神奈川指揮
	鶴見第1	神奈川第1
	支援 矢向	支援 神奈川第2
	専任隊	
	岸谷特災隊	
	機動距離搬送水隊・機動ホース延長隊	
	航空隊	
	救急隊1隊	
	指揮本部支援救助隊	
	総合指揮隊	
	特別高度救助部隊(5000L簡易水槽)	

第2出場	指揮本部運営(支援隊)	
	機子指揮(機之谷)	機子指揮(矢向)
第2出場	中指揮(藤原)	中指揮(藤原)
	神奈川指揮(菅田)	鶴見指揮(菅田)
	専任隊	
	救急隊2隊	
	よこはま・まもり(乗換 寺尾)	
	冷却・可搬砲搬送隊	
	権太坂	
	(東戸塚はしご可搬砲搬送)	
	六浦	
	(港南はしご可搬砲搬送)	
	上郷	
	(栄はしご可搬砲搬送)	
	荏田	
	(青葉はしご可搬砲搬送)	
	各隊・簡易水槽搬送も含む。	

石油コンピナー等災害出場計画および泡棄液搬送計画

京浜臨海地区 第3出場

区分	直接消火隊	化学専隊1	化学専隊2	送液隊	第1・2搬送隊	第3・4搬送隊	第5・6搬送隊
第3出場	出場隊名	青葉はしご 西第2(特)	港南台	鴨志田	同左	同左	同左
	泡棄液搬送量	1200	1500	1500/1500	1500/1500	1500/1500	1500/600
	泡棄液	車載	磯子タンク	よこはま	よこはま	よこはま	よこはま
特命事項	可搬砲搬送	簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送
第3出場	出場隊名	港北はしご 北方(特)	釜利谷	長津田	同左	同左	同左
	泡棄液搬送量	1200	1500	1500/1500	1400	3700	3700
	泡棄液	車載	磯子タンク	よこはま	よこはま	よこはま	ヘリポート
特命事項	可搬砲搬送	簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送
第3出場	<b>冷却・可搬砲搬送隊</b> 市沢 今宿 鴨居 <b>冷却・可搬砲搬送隊</b> 日吉 (日吉はしご可搬砲搬送) 若葉台 (若葉台はしご可搬砲) いずみ野 (泉はしご可搬砲) 各隊、簡易水槽搬送も含む。						

京浜臨海地区 第4出場

区分	第8消火隊	第9消火隊	第10消火隊	第11消火隊	第12消火隊	第13消火隊	第14消火隊
第4出場	出場隊名	南はしご	東富岡	大正	佐江戸資機材搬送	西原液搬送	
	泡棄液搬送量	300	300	1500	1900/1800	5000	
	泡棄液	車載	車載	ヘリポート	浦島出張所	ヘリポート	
特命事項	可搬砲搬送	簡易水槽搬送	簡易水槽搬送	簡易水槽搬送	薬液搬送	薬液搬送	薬液搬送
第4出場	出場隊名	旭はしご	高田	大岡	緑園	鳥が丘除染	鳥が丘除染
	泡棄液搬送量		300	300	1500	2880/2880	2880/60
	泡棄液	車載	車載	車載	西タンク	浦島出張所/防炎センター	旧中村町出張所
特命事項	可搬砲搬送	簡易水槽搬送	簡易水槽搬送	簡易水槽搬送	薬液搬送	薬液搬送	薬液搬送

注1:消防隊・はしご隊はそれぞれ単隊として出場すること。

注2:搬送資機材については、活動要領(第3章第5節1(4)搬送資機材等)を参照し、各隊必要な資機材等を搬送すること。

注3:泡棄液搬送量は、2時間の泡放射を継続させるため、各消火ラインごと合計10,800ℓの泡棄液を搬送する。

注4:原液搬送隊は、定められた消火ラインの泡棄液の搬送が終了した場合は、他の消火ラインの泡棄液搬送を補うこととする。

欠隊等による繰り上げ出場

第1出場及び第2出場においては欠隊等による繰り上げ隊は、第3・第4出場の上位同一任務部隊が繰り上げ出場となる。

原液搬送隊のみ佐江戸隊、鳥が丘隊の代わりとして元石川消防隊、中瀬谷消防隊を指定する。(繰り上げ順 鴨志田 長津田 元石川 中瀬谷)

石油コンピナー等災害出場計画および泡薬液搬送計画

根岸臨海地区 第1出場

区分	直接消火隊	化学車隊	送液隊	第1搬送隊	第2搬送隊	第3搬送隊	第4搬送隊
第1出場	出場隊名	本牧和山高所放水	時田	杉田原液搬送 (杉田)	杉田原液搬送 (杉田)	杉田原液搬送 (杉田)	
	泡薬液搬送量	2000	1500	4000	3300		
	泡薬液	車載	磯子タンク	車載	ハリポータータンク		
	特命事項		薬液・簡易水槽搬送	簡易水槽搬送	ピストン輸送		
第2出場	出場隊名	大黒町高所放水	小机	大黒町原液搬送 (未告)	大黒町原液搬送 (未告)	大黒町原液搬送 (未告)	
	泡薬液搬送量	1800	1500	4000	3500		
	泡薬液	車載	大黒町タンク	車載	ハリポータータンク		
	特命事項		薬液・簡易水槽搬送	簡易水槽搬送	ピストン輸送		

根岸臨海地区 第2出場

区分	直接消火隊	化学車隊	送液隊	第1搬送隊	第2搬送隊	第3搬送隊	第4搬送隊	第5搬送隊	第6搬送隊
第2出場	出場隊名	保土ヶ谷はしご	片倉	西原液搬送	西原液搬送	西原液搬送			
	泡薬液搬送量	1200	1500	5000	3100				
	泡薬液	車載	磯子タンク	車載	西タンク				
	特命事項	可搬砲搬送	薬液・簡易水槽搬送	簡易水槽搬送	ピストン輸送				
第3出場	出場隊名	磯子はしご	雷岡	本陣	同左	同左	同左	同左	
	泡薬液搬送量	1200	1500	1200	1200/1200	1200/1200	1200/900		
	泡薬液	車載	ハリポータータンク	磯子タンク	磯子タンク	磯子タンク/入船タンク	入船タンク		
	特命事項	可搬砲搬送	薬液・簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	ピストン輸送				
第4出場	出場隊名	緑はしご	上永谷	北山田	同左	同左	同左	同左	
	泡薬液搬送量	1200	1500	1500	1500/1500	1500/1500	600		
	泡薬液	車載	磯子タンク	西タンク	西タンク	西タンク/入船タンク	入船タンク		
	特命事項	可搬砲搬送	薬液・簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	ピストン輸送				

注1:消防隊・はしご隊はそれぞれ単隊として出場すること。

注2:搬送資機材については、活動要領(第3章第5節1(4))搬送資機材等を参照し、各隊に必要な資機材等を搬送すること。

注3:泡薬液搬送量は、2時間の泡放射を継続させるため、各消火ラインごと合計10,800ℓの泡薬液を搬送する。

注4:原液搬送隊は、定められた消火ラインの泡薬液の搬送が終了した場合は、他の消火ラインの泡薬液搬送を補うこととする。

欠隊等による繰り上げ出場

第1出場及び第2出場において欠隊等による繰り上げ隊は、第3・第4出場の上位同一任務部隊が繰り上げ出場となる。

原液搬送隊のみ在江戸隊、鳥が丘隊の代わりとして元石川消防隊、中瀬谷消防隊を指定する。(繰り上げ順 鴨志田 長津田 元石川 中瀬谷)

指揮本部運営(支援隊)			金沢区
中区	磯子区	磯子指揮	金沢指揮
中指揮	磯子指揮	磯子第1	金沢第1
中第1	磯子第1	支援	境之谷
支援	境之谷	支援	境之谷
専任隊			
幸浦特災隊			
機動遠距離送水隊・機動ホース延長隊			
航空隊			
救急隊1隊			
指揮本部支援救助隊			
総合指揮隊			
特別高度救助部隊(5000L簡易水槽)			

指揮本部運営(支援隊)		
鶴見指揮(失向)	神奈川指揮(失向)	神奈川指揮(失向)
神奈川指揮(磯原)	金沢指揮(磯原)	中指揮(磯原)
磯子指揮(菅田)	中指揮(菅田)	磯子指揮(菅田)
専任隊		
救急隊2隊		
よこはま・まもり(乗換 寺尾)		
冷却・可搬砲搬送隊		
権太坂		
(東戸塚はしご可搬砲搬送)		
六浦		
(港南はしご可搬砲搬送)		
上郷		
(栄はしご可搬砲搬送)		
荏田		
(青葉はしご可搬砲搬送)		
各隊、簡易水槽搬送も含む。		

石油コンビナート等災害出場計画および泡栗液搬送計画

根岸臨海地区 第3出場

区分	直接消火隊	化学専隊1	化学専隊2	送液隊	第1・2搬送隊	第3・4搬送隊	第5・6搬送隊
第3出場		第6消火隊	ライオン(水成膜)				
出場隊名	青葉はしご	西第2(特)	港南台	鴨志田	同左	同左	同左
泡栗液搬送量		1200	1500	1500/1500	1500/1500	1500/600	1500/600
泡栗液		車載	ヘリポートタンク	よこはま	よこはま	よこはま	よこはま
特命事項	可搬砲搬送	簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	ピストン輸送	
第7消火隊	ライオン(水成膜・水溶性液体用)						
出場隊名	南はしご	鶴見第2(特)	釜利谷	長津田	同左	同左	大黒町原液搬送(未着)
泡栗液搬送量		1200	1500	1500/1500	1400	3700	
泡栗液		車載	ヘリポートタンク	よこはま	よこはま	大黒町タンク	
特命事項	可搬砲搬送	簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	薬液・簡易水槽搬送	ピストン輸送		

第3出場	冷却・可搬砲搬送隊
	冷却中継隊
	市沢
	今宿
	鴨居
	冷却・可搬砲搬送隊
	日吉
	(日吉はしご可搬砲搬送)
	若葉台
	(若葉台はしご可搬砲)
	いずみ野
	(泉はしご可搬砲)
	各隊、簡易水槽搬送も含む。

根岸臨海地区 第4出場

区分	第8消火隊	ライオン(水成膜・水溶性液体用)
第4出場		
出場隊名	金沢はしご	東戸塚
泡栗液搬送量		300
泡栗液		車載
特命事項	可搬砲搬送	簡易水槽搬送
第9消火隊	ライオン(水成膜)	
出場隊名	旭はしご	高田
泡栗液搬送量		300
泡栗液		車載
特命事項	可搬砲搬送	簡易水槽搬送

注1:消防隊・はしご隊はそれぞれ単隊として出場すること。

注2:搬送資機材については、活動要領(第3章第5節1(4)搬送資機材等)を確認し、各隊に必要な資機材等を搬送すること。

注3:泡栗液搬送量は、2時間の泡放射を継続させるため、各消火ラインごと合計10,800ℓの泡栗液を搬送する。

注4:原液搬送隊は、定められた消火ラインの泡栗液の搬送が終了した場合は、他の消火ラインの泡栗液搬送を補うこととする。

欠隊等による繰り上げ出場

第1出場及び第7出場においては欠隊等による繰り上げ隊は、第3・第4出場の上位同一任務部隊が繰り上げ出場となる。

原液搬送隊のみ佐江戸隊、鳥が丘隊の代わりとして元石川消防隊、中瀬谷消防隊を指定する。(繰り上げ順 鴨志田 長津田 元石川 中瀬谷)

## 2 川崎市

署所	受持区域	第1出場	緊急配備	特別第1号		
				出場	緊急配備	特別編成
本署	水江町の特定事業所 扇島の特定事業所 扇町の特定事業所 白石町の特定事業所 大川町の特定事業所	臨港指揮 臨港救助 臨港特災 臨港大化高(大化高、水源)	藤崎 (臨港本署へ) 川崎2 (小田へ) 幸2 (殿町へ)	川崎2 (水、原液) 幸2 (水、原液) 川崎はしご 幸はしご	中原2 (小田へ) 高津2 (殿町へ) 多摩2 (高津本署へ) 栗谷 (多摩本署へ) 新作 (中原本署へ)	臨港1 殿町2 千鳥町高所 川崎1 幸1 中原1 高津1 多摩1 第5川崎丸 又は 第6川崎丸
	浮島町の特定事業所 東扇島の特定事業所	臨港2(水、水源) 殿町化学(化、水源) 浮島化学(化、水源) 小田化学(化) 南河原(普) 大島化学(化)	加瀬 (川崎本署へ) 苅宿 (加瀬へ) 平間 (幸本署へ) 小田中 (臨港本署へ)			
	夜光1丁目の特定事業所 夜光2丁目の特定事業所 夜光3丁目の特定事業所 千鳥町の特定事業所	第6川崎丸 又は 千鳥町化学				
	殿町出張所	小島町の特定事業所		(4隊)		

特別第2号			特別第3号		
出場	緊急配備	特別編成	出場	緊急配備	特別編成
砲1号 苅宿(普、水源) 加瀬(普、水源) 中原2(水、原液) 砲2号 井田(普、水源) 平間(普、水源) 高津2(水、原液) 第5川崎丸 又は 第6川崎丸 (7隊)	子母口 (川崎本署へ) 梶ヶ谷 (殿町へ) 宮前2 (小田へ) 野川 (加瀬へ) 久地 (幸本署へ) 向丘 (小田中へ) 菅生 (宮前本署へ) 宮崎 (梶ヶ谷へ)	浮島 平間化学 宮前1 子母口化学 小田	千鳥町高所(高所) 平間化学(化、水源) 殿町2(水、原液) 砲3号 子母口(普、水源) 野川(普、水源) 宮前2(水、原液) (6隊)	犬蔵2 (川崎本署へ) 麻生2 (犬蔵へ) 小田中 (小田へ) 王禅寺 (麻生本署へ) 百合丘 (小田中へ)	麻生1 犬蔵1

- 注1 「特別第1号」以上の指令のときは、当該出場区分以下の出場、緊急配備及び特別編成を含むものとする。  
 2 (大化高)は大型化学高所放水車、(高所)は大型高所放水車、(化)は化学車、(普)は普通ポンプ車、(水)は水槽付ポンプ車、(水源)は水源担当隊、(原液)は原液担当隊を示す。  
 3 第1出場時に救急隊1隊を同時出動させるものとする。

## 7 - 3 特定事業所等の防ぎょ活動内容

### 1. 緊急措置

- (1) 電源の停止、火源、熱源の消火、装置の運転停止等
- (2) 危険物、ガス等の張込み停止
- (3) 圧抜き、各ユニットの縁切り
- (4) 発災施設等の冷却
- (5) その他必要な緊急措置

### 2. 警戒措置

- (1) 電源の停止、火源、熱源の消火、装置の運転停止等
- (2) 事業所内施設の巡回点検
- (3) 危険物等の移動、抜取り
- (4) 危険物施設の冷却
- (5) その他必要な警戒措置

### 3. 災害の拡大防止措置

- (1) 流出油の回収、拡散防止のため、土のう積みなどを行う。
- (2) 防油堤等損壊部分の応急復旧
- (3) 泡消火剤の散布による二次災害の防止
- (4) 隣接タンクへの放水冷却
- (5) 当該タンク内油の抜取り